

外務省プロジェクト

観光旅客船内における感染症の予防 及び感染症拡大した際の国際的な対応 の在り方に関する調査・研究業務 最終報告書の概要

2021.5.28 10-12時

クルーズアカデミー&クルーズ活性化会議 オンライン開催

大阪府立大学名誉教授 池田良穂

(外務省プロジェクト 有識者会議議長)

プロジェクトの概要

- 外務省→IAFOR(International Academic Forum: 本部名古屋)→大阪大学国際公共政策研究科IAFOR研究センター(星野俊也教授・佐藤治子教授)→赤井伸郎教授→日本クルーズ&フェリー学会
- 日本クルーズ&フェリー学会が5本の調査レポートを受託
- プロジェクトの有識者会議に池田が参加
- 池田が有識者会議の議長に指名される
- 4回の有識者会議をオンライン開催(うち2回は海外グループとの情報交換も含む)
 - +1回の国際会議を開催(東京会場+オランダ+米国)
- 報告書の作成は、星野・佐藤教授が担当

日本クルーズ&フェリー学会への依頼レポート一覧

1. 検疫体制の視点

客船の検疫の歴史ー亜米利加丸ペスト事件にみる明治期の海港検疫ー

山田 勉生 (日本海事史学会副会長・日本クルーズ&フェリー学会会員)

2. 船体構造の視点

ダイヤモンド・プリンセスでの新型コロナウイルス禍

池田良穂 (大阪府立大学名誉教授・日本クルーズ&フェリー学会前会長・現事務局長)

3. 船社の感染対策の視点

新型コロナウイルスへの客船業界に

梅田直哉 (大阪大学教授・日本クルーズ&フェリー学会会長)

4. 港湾インフラ対策の視点

港湾インフラ・エリアにおける感染症対策

ーコロナ禍での日本船受け入れ自治体のヒアリングをもとにー

赤井伸郎 (大阪大学教授・日本クルーズ&フェリー学会監事)

橋本浩幸 (兵庫県立大学准教授)

5. 寄港地観光の視点

寄港地観光における感染症対策

ーコロナ禍での日本船受け入れ自治体のヒアリングをもとにー

武者加苗 (札幌大学教授)

齊藤由里恵 (中京大学准教授・日本クルーズ&フェリー学会会員)

有識者会議メンバー

- **池田良穂** 大阪府立大学名誉教授・日本クルーズ&フェリー学会前会長・
現事務局長
- **兼原敦子** 上智大学教授・国際法学会代表理事
- **河野真理子** 早稲田大学法学学術院教授
- **館田一博** 東邦大学教授・日本感染症学会理事長
- **和田耕治** 国際医療福祉大学医学部公衆衛生学教授
- **角南 篤** 笹川平和財団理事長
- **星野俊也** 大阪大学国際公共政策研究科教授

大きな認識の違い

- 専門分野の違い(法律、感染症、海事…)
- 船舶・クルーズに関する知識の違い
- ダイヤモンドプリンセス、コスタアトランティカ、ウェステルダムの事案に対する認識の違い
- 海外からの情報(オランダ+アメリカ)
- 有識者会議の中で議論して、共通の認識に到達

報告書

- 2021-3-29
- 外務省において
中西外務大臣
政務官に提出



観光旅客船内における感染症の拡大の
予防及び感染症が拡大した際の国際的な
対応の在り方に関する調査・研究業務

報告書

(英語版)
Web版



令和3年3月29日

一般社団法人 The International Academic Forum

報告書の概要(1)

目的と方法

- 「ダイヤモンド・プリンセス」と「コスタ・アトランチカ」の2隻のクルーズ客船の船内新型コロナ集団感染を体験
- 水際で感染拡大を押さえて、国内・国外への感染拡大を防ぐことに成功
- これらのベストプラクティスや教訓、国際法等の論点を整理
- 日本がリードして、感染症対策を強化した「健康で安全なクルーズ」を振興する

報告書の概要(2)

重要な3つのポイント

- 信頼できる船(ships of confidence)
- 信頼できる港湾(ports of confidence)
- 国際法、制度、関連する国際機関の役割

報告書の概要(3)

クルーズの特性

- きわめて多様な関係主体による多国籍環境
- 旗国、運航国・会社、乗員・乗客、寄港国・港湾当局
- 感染症拡大防止処置の一義的な責任の所在が不明確
(旗国、運航会社、寄港国)
- 感染症拡大防止処置における指揮命令・各主体の
責任・義務・負担分担の在り方
- 船体構造
- 報道・コミュニケーション
- 国際法(国連海洋法条約、国際保健規則、国際海事法
(SOLAS等)の理解
- 国内法制との関係

報告書の概要(4)

結果と提言(1)

- 感染症拡大防止という国際共通利益のために、寄港国の管轄権が発揮されてしかるべき
- 日本には、寄港国としてより効果的に寄港国処置がとれる法的整備が望まれる
- 便宜置籍国を含む旗国は、より信頼度の高い旗国としての役割が期待される。
- あるべきパンデミック国際法の中に、寄港国管轄権や国際協力を位置づけること。

報告書の概要(5)

結果と提言(2)

- アジア域内で「信頼性のある港湾ネットワーク」を構築すること。
- 船体構造に係る情報、乗員訓練、乗客の心構えが現場対応に必要とされること。
- 関係国際機関(WHO、IMO、ILO等)における情報共有、議論、相互連携をすすめること。

同プロジェクトを終えて

- クルーズ再開
 - 国内クルーズ(2020年7月から順次再開)
 - 外航クルーズ(2022年から?)
- クルーズの風評被害の解消
 - 換気は病院レベル
 - ダイヤモンド・プリンセス、コスタ・アトランチカの事例は水際対策の成功事例
 - クルーズ船は病院船としても活用できる
- 寄港地の住民理解
- 乗客の心構え
- アジア域内の寄港地間連携の推進

とにかく船好きの方!

船舶関係企業様
(現在34社)

会員募集中!

クルーズに興味
がある方!

ご入会はホームページから、または事務局まで

日本クルーズ&フェリー学会

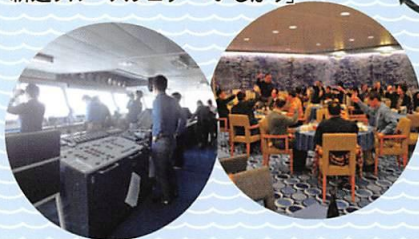
本学会は、客船に関する様々な分野を横断的に結びつけ、学術という視点から客船を分析し、客船産業を学術面から支援することを目的として設立されました。

●URLが変わりました→<http://cruise-ferry.main.jp>

大人気!「乗船会」

乗船会では船内および
ブリッジ見学等を行っています

名古屋港～仙台港～苫小牧港
新造クルーズフェリー「いしかり」



ストックホルム～マリーhamn～ツルク
LNG 燃料フェリー「バイキング・グレース」見学会



敦賀港～苫小牧東～敦賀
新造高速フェリー「すいせん」「すずらん」



情報いっぱい!会誌・論文集

情報盛り沢山の会誌・論文集を発行
(学会誌年3回、論文集年1回)

船の情報たっぷり
40ページフルカラー
充実の学会誌が年3冊!

学会誌

「クルーズ&フェリー」第14号

- 北海道の離島航路
- シリーズ/キユナード・ラインの奥深さを楽しむ
- 若い世代と船をつなぐ取り組み

学会論文集第6号 (WEB版)

- 内航長距離カーフェリーのブローチング現象に対する安全性評価
- エクスペディション型客船を活用した離島観光振興モデル～奄美大島における「世界自然遺産」を活用したクルーズ受入機能分化～



講演会、シンポジウムも開催!